



ゆげゆみ さと りゅうおうちょう 弓削弓つくりの郷 (滋賀県竜王町)

- 本地域は、琵琶湖に流れる日野川の中流部に位置する水田地帯。ほ場整備から40年以上経過し、施設の老朽化により、水路の漏水や泥の堆積が進み、維持管理が課題となっていた。また、県一丸となって取組む琵琶湖の水質保全のため、水田の濁水流出防止対策が必要であった。
- このため、本制度により、浅水代かきの促進や法面の補修による水路の表土流入を防止。また、代かき期の透視度調査のほか、植栽による景観形成活動などにより、濁水防止・環境保全を啓発。
- これらの取組は、水稻やそばの環境こだわり農産物の作付面積の拡大やそばの6次産業化の取組などを支えている。

【地区概要】

- ・取組面積 70ha (田 69ha、畑 1ha)
- ・資源量 開水路 9.8km 農道 4.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、婦人会、子ども会、農村保全会、OB会
- ・交付金 約230万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同) 〕

活動開始前の状況や課題

- 琵琶湖に流れる日野川の中流部に位置する水田地帯。
- ほ場整備から40年以上経過。施設の老朽化により水路の漏水や泥の堆積が進行。維持管理の負担が増加。
- また、琵琶湖の水質保全のため、水田からの濁水流出防止対策が必要になった。



老朽化水路からの漏水状況

取組内容

【濁水防止対策の実施】

- ・濁水防止策として、浅水代かきを促進。
- ・水質保全のため、法面を補強し、水路へ表土の流入を防止。

【啓発活動の実施】

- ・代かき時に集中的に行う透視度調査や看板設置により濁水防止を啓発。
- また、子ども会等と連携した植栽を実施し、環境保全も啓発。



透視度調査の状況



子ども会による植栽状況

取組の効果

【濁水防止対策の取組】

代かき時の透明度調査 3回/年

【環境こだわり農産物※の作付状況】

※化学合成農薬及び化学肥料の使用量を慣行の5割以下に半減し、環境への負荷を削減して生産された農産物

- ・作付面積
31.4ha(平成25年度) → 42.0ha(平成29年度)

【地域ブランド「竜王そば」の栽培】

・H29年度作付面積:約24ha

【そばの6次産業化】

○そばの有機栽培生産から加工、販売までの6次産業化を実現。



そばを使用した商品の販売



くだわ あさごし
久田和環境保全会（兵庫県朝来市）

- 本地域は、但馬地域南部に位置し、高齢化に伴う後継者不足等が懸念される一方、コウノトリの放鳥に向けて環境に配慮した農法に対する関心が高まった。
- 本取組による水路や農道の草刈り等の集落一斉の共同活動により、農業者の負担が軽減。水田生物が生息しやすい環境を創出。これらの取組により、環境に配慮した農業を支援。
- 水田生物の増加によりコウノトリ等の鳥類が多く飛来するとともに、環境に配慮した農法に関心を持つ若者が新規就農するなど、新たな農業の展開が図られている。

【地区概要】

- ・取組面積 26ha(田26ha、畑0.1ha)
- ・資源量 開水路9.7km、農道7.0km、ため池1箇所
- ・主な構成員 農事組合法人、婦人会、子供会、老人会等
- ・交付金 約2百万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、但馬地域の南部に位置する中間農業地域である。
- 農業者の高齢化や後継者不足による水路・農道等の維持管理の負担増大や耕作放棄地の発生が懸念。
- 野生下絶滅したコウノトリの放鳥に向けて、環境に配慮した農法に対する地域住民の関心が高まった。
- 平成19年度から、本交付金による水路・農道等の維持管理の共同活動を実施。



久和田の概観

取組内容

- 集落一斉の草刈・泥上げ、水路や農道の補修・更新等を行い、生産条件を改善することで、農業者の負担を軽減。
- 冬期湛水などにより、水田生物が生息しやすい環境を創出するとともに、生物調査による観察を実施。
- これらの取組により、「コウノトリ育むお米生産部会役員会」が定める、無農薬、無化学肥料による「コウノトリ育む農法」による米や黒大豆の栽培を支援。



冬期湛水をしている水田

取組の効果

- 餌となるドジョウやカエル等の水田生物の生息環境が保全され、コウノトリやガン・カモ類等の鳥類が多く飛来。

〔 冬期湛水面積：H20年度0ha→H21年度以降26ha
水田生物の種数：H20年度5種→H27年度10種 〕

- 環境に配慮した農法により、「コウノトリ育むお米」を継続的に栽培。

〔 H27年度の実績
・認証米栽培面積・出荷量 8.6ha(地区面積の33%)・36,120kg
・認証米買取価格
コウノトリ育むお米(無農薬・減農薬)
11,000円/30kg・8,200円/30kg(一般米 6,500円/30kg) 〕

- 多様な生き物を育む環境づくりに対する地域の意識が向上。環境に配慮した農法に関心を持つ若者が新規就農。

〔 新規就農者数
H27年度就農者 1名 H28年度就農者 2名 〕



久和田に飛来したコウノトリ



農業用水源の湿原の生態系に配慮した保全

やまむろ まいばらし
山室保全会 (滋賀県米原市)

- ラン科の多年草であるサギソウ等の希少性の高い植物を有する山室湿原は、農業用水の水源としても重要な役割を果たしている。
- 自治会が母体となり、平成24年度に活動組織を設立。地域の草刈や泥上げ等の共同活動のほか、高度な農地・水の保全活動として、
 - ・琵琶湖の水質保全に資する循環かんがい施設の保全等
 - ・山室湿原における管理・観測用の歩道(木道)の補修を実施した。

【地区概要】

- ・取組面積 29ha (田 29ha、畑 0.1ha)
- ・資源量 水路 7.7km、農道 4.4km、ため池 2箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会、老人会、婦人会
- ・交付金 約1百万円(H29)
 - 〔 農地維持支払 資源向上支払(共同) 〕

木道の補修

現状

・地域住民の生活の変容により、湿地の利用が減少し、人的管理が行き届かなくなったことから、湿地の陸地化が進行している。

・管理用の木道は、湿原の生態系への配慮から防腐剤を使用していないため、劣化が早く、補修等の保全管理が課題となっている。

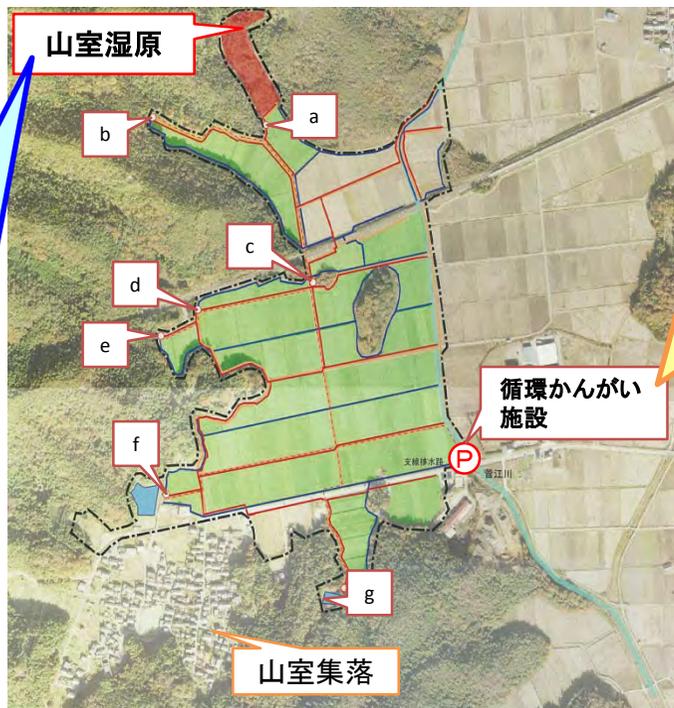


劣化の進行した木道

高度な農地・水の保全活動による木道の補修



補修状況



循環かんがい施設の保全

現状

- ・昭和60年頃のほ場整備により設置した揚水機場(図のⓅの位置)からa~g地点まで排水をポンプアップし、循環かんがいを実施している。
- ・農業管理組合により揚水機場を管理していたが、高齢化の進行等により吸水槽の土砂上げ等に苦慮している。

高度な農地・水の保全活動による循環かんがい施設の保全



循環かんがい施設内部

真空ポンプの更新



取組における課題および今後の展開

- ・山室湿原の管理で年3回の伐採を実施しているが、伐採後に発生する残材の処分が課題となっている。
- ・地域資源の保全管理を恒久的な活動とするため、より参加しやすい環境づくりが必要。将来的には、山室湿原の保全を通して、サギソウの村として地域活性化を図りたい。



おおはらさと

きょうとし

大原里づくりトライアングル（京都府京都市）

- 本地域は、歴史・文化資源と豊かな自然環境が調和した地域であるが、耕作されていない農地が増え、風情ある農村景観が失われつつあった。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、地元の小中学校と連携したオオムラサキの保護活動など、貴重な地域資源と自然の豊かさを知り、後世に残すための活動を積極的に展開。
- 本取組により、オオムラサキや水生生物の生息数が増加し、地域住民の環境保全に対する意識も向上。また、活動を通じて地域コミュニティが徐々に回復。

【地区概要】

- ・取組面積 48ha（田 46ha、畑 2ha）
- ・資源量 開水路13.0km、農道2.0km
- ・主な構成員 農業者、NPO、土地改良区
- ・交付金 約4百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、三千院などの歴史・文化資源と豊かな自然環境が調和した豊かな田園風景を有する地域。
- しかし、農業者の高齢化や混住化等により耕作されていない農地が増加するなど、風情ある農村景観が喪失。
- 「農」を核とした地域づくりを目指そうと、平成11年以降農業者を中心に各種組織を設立し、加工・直売等の6次産業化や基盤整備事業を導入。
- また、10年以上前に、本地域ではほとんど見られなくなったオオムラサキの死骸を小学生が発見したことがきっかけで、農業だけでなく景観・環境保全等の課題解決にも取り組み。



大原の景観

取組内容

- 土地改良区、農業団体及び非農業者主体のNPO法人のトライアングル体制を核とした活動組織を設立。
- 平成19年度から農地・水・環境保全向上対策に取り組み、農地・水路等の地域資源の保全活動を地域ぐるみで実施。
- 専門家の指導の下、地元の小中学校と連携し、希少種オオムラサキの保護活動（累代飼育や放蝶会、クヌギの育生等）や水生生物調査なども実施。
- これらの活動を継続し、貴重な地域資源と自然の豊かさを知り、後世に継承。



水生生物調査の様子

取組の効果

- 専用の網室に1,000頭程度の蝶を育生・保護し、毎年放蝶。近年、スポット的に蝶が見られる場所が増加。

〔 H29.6月放蝶会 参加者80名程度 50頭以上放蝶 〕



- 地域住民の水質保全に対する意識が向上したほか、水生生物の種類が増加。

〔 10年前の調査 水生生物27種類
H27.7月の調査 水生生物40種類
※参加者40名程度 〕

- これらの取組を通じ、農村環境が保全されるとともに、希薄になりかけていた地域コミュニティが徐々に復活。



地域外の参加者を積極的に呼び込んだ取組の発展

さと やすし せせらぎの郷 (滋賀県野洲市)

- 本地域（野洲市須原地内）集落内の高齢化が進み、担い手が年々減少する中、地域の農業と環境を守る集落ぐるみで一致団結できる新たな取組が必要だった。
- 「農地・水・環境保全向上対策」と「魚のゆりかご水田プロジェクト（田んぼと琵琶湖との連続性を保つために排水路に魚道を設置し、在来魚を保全する取組）」を活用し、琵琶湖の生きものと人が共存し、持続可能な農業を目指す取組を展開。
- 「魚のゆりかご水田」でのイベント（田植え体験、生き物観察会、稲刈り体験）、水田オーナー、地域サポーター、大学、行政等の地域外の参加者との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞きながら、活動の工夫や「魚のゆりかご水田米」のPR・販売を実施。

【地区概要】多面的機能支払交付金

- ・取組面積 46.48ha(田)
- ・資源量 水路5.0km、農道4.3km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、子供会、PTA等
- ・交付金 約2百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、昭和47年から始まったほ場整備が行われる前は、田舟を使って農業を営むクリーク地帯
- ほ場整備によりクリークは埋められ、生産性と利便性が向上した反面、普段の暮らしの中で川や琵琶湖との関わりが希薄となり、身近な生きものの価値や水辺環境の良さに気付くことが困難に
- 集落内も高齢化が進み、担い手が年々減少する中で、琵琶湖と人々が身近だった関係をもう一度取り戻し、地域の農業と環境を守る新たな集落ぐるみの取組が必要



ほ場整備前の須原集落内のクリークと田舟

取組内容

- 集落が一丸となって取り組みを始めた「魚のゆりかご水田」を持続可能な活動とするため、「水田オーナー制度」を導入し、田植え体験、生き物観察会、稲刈りの体験イベントを実施
- 大学のインターンシップの受け入れ、大学への出前講座など、教育機関と連携した環境学習を実施
- 米のブランド化や地酒の製造販売による6次産業化、JAが行う東京での収穫祭と連携し、地元農産物のPR活動を実施

【平成29年度の活動実績】

- ・田植え体験(80名参加)、生きもの観察会(210名参加)、稲刈り体験(100名参加)
- ・一部、無農薬、無化学肥料栽培の実施
- ・鮎寿司漬け体験(21名参加)
- ・東京の大学からゼミ合宿受入(15名)
- ・国内外から視察研修受入(12団体)
- ・「魚のゆりかご水田」活動動画をyoutube、HPに掲載 等

取組の効果

- 「魚のゆりかご水田」を中心とした活動を集落内の人々だけでの農村環境保全活動に留めず、最初から「魚のゆりかご水田米」のPRや販売の仕方まで視野に入れながら取組を推進
- イベント等で集まった水田オーナーや地域サポーター、大学や有識者、行政等との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞き、次に繋がるように工夫しながら活動を展開
 - 無名だった須原集落が、「せせらぎの郷」として平成23年度全国豊かなむらづくり表彰事業をはじめ、数々のコンクール等で受賞されるほどに地域が発展



HPでの「魚のゆりかご水田米」のPRと生き物観察会の様子



ため池の保安全管理と一体となった農振農用地区域外における取組

あみだ たかさごし 阿弥陀地区地域資源保全会（兵庫県高砂市）

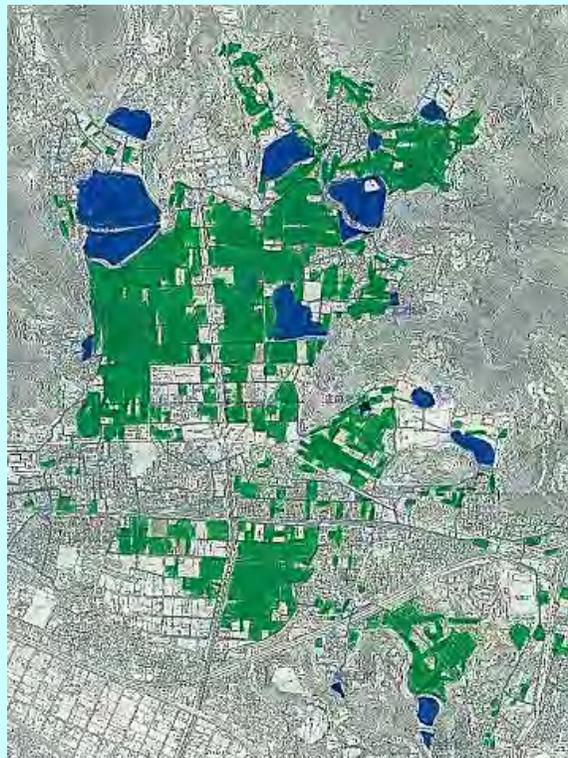
- 本地区は、21箇所のため池を水源とし、市街化調整区域に広がる水田地帯。これまで地区内のため池はため池整備構想に基づく5つのため池協議会により、水路は9つの水利組合により、別々に保安全管理されてきた。
- 兵庫県は、ため池の保全等に関する条例に基づくため池整備構想を策定し、「農業用水供給能力や治水能力が高い、安全なため池」「自然に触れられる快適なため池」等を目標に、ため池やその周辺整備、地域住民参加による管理等を進めており、本地域のため池をはじめ、同構想に基づき保安全管理を行う受益農地を農地維持支払交付金の対象農地に設定した。
- 平成26年度より、5つのため池協議会及び9つの水利組合に、地域の14の農会（農業者の集まり）を加え、活動組織を設立し、21箇所のため池及び地区内の水路の一体的な保安全管理を開始した。

【地区概要】

- ・取組面積 106ha（田105ha、畑1ha）
- ・資源量
開水路53.0km、ため池21箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者
- ・交付金 約3百万円（H29）
〔 農地維持支払 〕

地域の状況

- 本地区は、昭和44年にほ場整備事業が行われたが、現在地区内の水路は老朽化が進行。
- 農家数の減少・高齢化が進み、水利組合によって水路の泥上げや草刈り、補修等の保安全管理を十分に行うことが困難であった。
- 地域は、兵庫県ため池整備構想に基づき保安全管理されているため池の受益地。
- なお、高砂市内の農地に農振農用地区域は設定されていない。



- 対象農用地
（農振農用地区域外）
- 保安全管理するため池

ため池の保安全管理



草刈り、ゴミ拾い等



地域住民による外来種駆除